

令和8年度 2 学年

== 共通教科 ==

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	学年	2	学科	全学科
使用教科書	新編文学国語 (大修館書店)			副教材	プライム常用漢字 (第一学習社)			対応資格	なし

### 1 目標

言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

### 2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、自分の考えが効果的に伝わるように、表現の仕方等を工夫しようとしている。

### 3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代文	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	進んで描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深めようとしている。
古文	古文の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまりや古文特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	進んで文語のきまりや古文特有の表現を理解し、学習課題に沿って作者の考えを的確に捉えようとしている。
漢文	漢文の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまりや漢文特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、漢文を学ぶ意味について考えを持とうとしている。

#### 4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、観点別の総括をABCで行う。また、前、後期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
発表・発言	○	○	○
ノート・プリント		○	○
行動観察			○
自己評価・相互評価			○

#### 5 担当教員から

- ・教科書・ノート・副教材・Chrome book 等、忘れ物をしないこと。
- ・授業中は必ずノートを記入すること。
- ・提出物は、提出期限を守ること。
- ・主体的に授業に参加すること。
- ・発表や話し合いは、他者の意見に耳を傾け、お互いに認め合いながら学ぼうという姿勢で臨むこと。

教科	数学	科目	数学A	単位数	2	学年	2	学科	全学科
使用教科書	最新数学A (数研出版)			副教材	パラレルノート数学A		対応資格	なし	

### 1 目標

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

### 2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力がついている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身につけている。

### 3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合をそれぞれの場合に適した形で表し、共通部分、和集合、補集合を求めることができる。</li> <li>場合の数を求めるときの基本的な考え方について理解している。</li> <li>順列や組合せの用語、公式を理解し、利用できる。</li> <li>確率の意味や基本的な法則についての理解し、確率の定義に基づき、様々な事象の確率を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。</li> <li>具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できて、どのような場合に組合せの考え方が適用できるかを見極めることができる。</li> <li>様々な事象について理解し、その確率を求めることができる。</li> <li>日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、場合の数や確率を問題解決に活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。</li> <li>順列、円順列、重複順列の違いや、組合せの考え方を利用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。</li> <li>和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。</li> <li>様々な確率について、興味をもって調べようとする。</li> </ul>

第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の性質について理解している。</li> <li>・三角形の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。</li> <li>・円の性質について理解している。</li> <li>・円に関する様々な性質を用いて、角度と辺や線分の長さを求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形や円の性質についての理解を事象の考察に活用できる。</li> <li>・証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。</li> <li>・図形に関する様々な定理を十分理解し、それを利用して、いろいろな角度から図形を考察し、角度と辺や線分の長さを求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。</li> <li>・三角形の外心、内心、重心が持つ性質に興味関心を示し、自ら調べ問題を解こうとする意欲と態度がある。</li> <li>・図形に関する身近な問題について、ここで学んだことを利用して積極的に考察し、解決しようとする。</li> </ul>
第3章 数学と人間の活動 第1節 約数と倍数 第2節 1次不定方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容を理解している。</li> <li>・約数・倍数の意味、素因数分解、公約数・最大公約数、互除法の原理を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深め、現実の事象を、数学を用いて考察できる。</li> <li>・約数・倍数の意味、素因数分解、公約数・最大公約数、互除法の原理を用いて、問題についての考察を深めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。</li> <li>・日常に関連した法則や規則を数学を用いてとらえることに興味・関心をもつ。</li> <li>・互除法の原理に興味・関心をもつ。</li> </ul>

#### 4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト	○		○
自学課題	○		○
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

#### 5 担当教員から

数学は、数学的見方・考え方を身に付けることにより事象を論理的に考察する力、表現する力を養う教科です。座学が中心となりますが、普段の授業を大切に、問題意識を持って積極的に授業に参加し、課題や提出物にもしっかり取り組んでください。

教科	地歴公民	科目	地理総合	単位数	2	学年	2	学科	全学科
使用教科書	高等学校地理総合(帝国書院)			副教材	コンパクト 地理総合地図 (二宮書店)		対応資格		

### 1 目標

中学校で学習した内容の復習から導入し、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
地図や地理情報システムなどを用い、調査や諸資料から地域的・地球的課題への取り組みを理解することができるか。	地理に関わる事象の意味や背景を位置や分布・自然環境に着目し、多角的・多面的に考察し課題解決に向けて構想したり説明できるか。	地理に関わる諸事象についてよりよい社会の実現ができるよう課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養い、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さを深めることができたか。

### 2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図や地理情報システムなどを用い、調査や諸資料から地域的・地球的課題への取り組みを理解することができるか。	地理に関わる事象の意味や背景を位置や分布・自然環境に着目し、多角的・多面的に考察し課題解決に向けて構想したり説明できるか。	地理に関わる諸事象についてよりよい社会の実現ができるよう課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養い、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さを深めることができたか。

### 3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1部1章 地図と地理情報システム 第1部2章 結び付きを深める現代世界 第2部1章1節 世界の地形と人々の生活	・定期考査 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。	・国名テスト ・出席 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。
第2部1章2節 世界の気候と人々の生活 第2部1章3節 世界の言語・宗教と人々の生活 第2部1章4節 歴史的背景と人々の生活 第2部1章5節 世界の産業と人々の生活	・定期考査 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。	・国名テスト ・出席 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。

2部2章1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 第2部2章 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題	・定期考査 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。	・国名テスト ・出席 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。
第3部1章 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 第3部1章5節 自然災害への備え 第3部2章 生活圏の調査と地域の展望 第2部 追突事例 自然・宗教 第2部 追突事例 歴史・産業	・定期考査 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。	・国名テスト ・出席 達成度をA・B・Cの3 段階で評価する。

#### 4 観点別学習状況の評価について

各単元において上記3観点で評価、学期末に観点別の総括をABCで行う。また、学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。詳細は本校教務規定を参照の事。

本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト			○
発表・話し合い	○	○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	学年	2	学科	海洋技術科
使用教科書	生物基礎(実教出版)			副教材	なし			対応資格	なし

### 1 目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
日常生活や社会との関係を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

### 2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関係を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。

### 3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 生物の特徴 1 生物の多様性と共通性 2 生物とエネルギー  2章 遺伝子とその働き 1 遺伝子とDNA 2 遺伝情報とタンパク質の合成	生物の特徴についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。
3章 ヒトのからだの調節 1 体内環境 2 体内環境の維持のしくみ 3 免疫	ヒトの体の調節についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	ヒトの体の調節について、観察、実験を通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現することができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。

4章 生物の多様性と生態系 1 生態系とその成り立ち 2 植生とバイオドーム 3 生態系と生物の多様性 4 生態系のバランスと保全	生物の多様性と生態系についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。また、生態系の保全の重要性について認識している。	生物の多様性と生態系について、観察・実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現することができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。
---	---	---	---

#### 4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCする。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。(仮評価) また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

#### 5 担当教員から

授業は必ずノート等に授業内容を記入し、提出物は期限を守ってください。教科担任の指示にしたがい、しっかり学習すること。忘れ物も無いように注意すること。

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	学年	2	学科	水産食品科 品質管理流通科
使用教科書	科学と人間生活(東京書籍)			副教材	なし		対応資格	なし	

### 1 目標

自然の事物・現象資質に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

### 2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

### 3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
序章 科学技術の発展	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献しているかについて理解している。	科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
1編 生命の科学 2章 微生物とその利用	微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解している。	生命の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
2編 物質の科学 2章 材料とその利用	身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解している。	物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

3編 光や熱の科学 3章 光の性質とその利用	光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解している。	光や熱の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
4編 宇宙や地球の科学 4章 自然景観と自然災害	自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解している。	宇宙や地球の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
5編 課題研究	これからの科学と人間生活の関わり方について認識を深めている。	これからの科学と人間生活の関わり方について科学的に考察することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

#### 4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。(仮評価)また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

#### 5 担当教員から

授業は必ずノート等に授業内容を記入し、提出物は期限を守ってください。教科担任の指示にしたがい、しっかり学習すること。忘れ物も無いように注意すること。

教科	英語	科目	英語コミュニケーション I	単位数	2	学年	2	学科	全て
使用教科書	VISTA ENGLISH Communication I (三省堂)			副教材	コア本1800(東京書籍)	対応資格	なし		

### 1 目標

外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、外国語5技能の言語活動及びこれらの統合的言語活動を通して、情報・考えなどを的確に理解・表現・伝達し合うなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
外国語の5技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けると共に、外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解する。	場面に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすると共に、手に入れた情報を活用して、自分の意見を伝える力を身に付ける。	他者を尊重し、配慮しながら、外国語で手に入れた情報を活用し、自分の意見を表現しようとしたり、言語やその背景にある文化の違いに対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

### 2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
外国語の5技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けると共に、外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすると共に、手に入れた情報を活用して、自分の意見を伝えている。	他者を尊重し、配慮しながら、外国語で手に入れた情報を活用し、自分の意見を表現しようとしたり、言語やその背景にある文化の違いに対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしたりしている。

### 3 【指導項目】 Lesson ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Lesson 6 Machu Picchu 1) 現在完了形【継続】 2) 現在完了形【経験】 3) 現在完了形【完了】	現在完了形を使った文を読んだり聞いたりして、ある人物の過去から現在までの状態や動作を理解できる。	現在完了形を使って、過去から現在までの自分の状態や動作を話したり書いたりして、相手に伝えることができる。	マチュ・ピチュの過去と現在の違いや、当時のインカ人達の行動や目的を知ろうとする。
Lesson 7 Artificial Intelligence 1) 受け身【現在形】 2) 受け身【過去形】 3) 受け身【否定文】【疑問文】	受け身の表現を使った文を読んだり聞いたりして、AI がどのように使われているのかを理解できる。	受け身の表現を使って、ある人物が何をされたのかを話したり書いたりして、相手に伝えることができる。	AI 技術の進歩を目の当たりにし、AI は今後どのようなことができるようになるのか考える。
Lesson 8 Is There a Santa Claus? 1) 関係代名詞 who(主格) 2) 関係代名詞 which(主格) 3) 関係代名詞の省略(目的格)	関係代名詞を使った文を読んだり書いたりして、ある人物がどのような特徴を持っているのかを理解できる。	関係代名詞を使って、ある人物をより詳しく相手に伝えることができる。	サンタクロースについて、彼らがどのような人物であるか知ろうとする。

Lesson 9 Kid' s Guernica 1) 現在分詞 2) 過去分詞 3) 関係副詞 when, where	分詞や関係副詞を使った文を読んだり聞いたりして、ある人物や時間・場所がどのような特徴を持っているのかを理解できる。	分詞や関係副詞を使って、ある人物や時間・場所をより詳しく相手に伝えることができる。	ピカソのゲルニカを例に、戦争のない世を作るために自分たちは何をすることができるのかを考える。
Lesson 10 Ethical Fashion 1) 比較級 2) 最上級 3) 原級比較	比較表現を使った文を読んだり聞いたりして、ある人物と別の人物との比較する内容を理解することができる。	比較表現を使って、ある人物と別の人物を比較して相手に伝えることができる。	世界の様々な国の情勢を知った上で、世界を持続させるために、自分たちは何をすることができるのかを考える。

#### 4 観点別学習状況の評価について

各考査において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、考査毎に観点別の総括を ABC で行う。また、前後期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。さらに後期期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト			○
自学課題			○
調べ学習・レポート			○
発表			○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

#### 5 担当教員から

英語は座学と実技の2つの側面を持っています。そのため、テストだけ頑張っても良い成績は残せません。普段の授業を大切に、発表や調べ学習にも積極的に取り組んでください。

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2	学年	2	学科	全学科
使用教科書		現代高等保健体育(大修館)		副教材	保健体育ノート		対応資格		

### 1 目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

### 2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けている。

### 3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体育理論 1.「スポーツの文化的現代のスポーツの発展」	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えようとしている。	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に主体的に取り組もうとしている。
体育理論 2. 運動やスポーツの効果的な学習の仕方	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。		
体育理論 3. 豊かなスポーツライフの設計の仕方	豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。		
集団行動	様々な環境下で実践する際の集団の一員としての自覚や行動を実践するための技能を習得している。	集団の中の一員としての自覚をよりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えようとしている。	集団行動を自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすることや、健康・安全を確保しようとしている。
体づくり運動	様々な環境下で実践する際の健康・安全の確保の仕方やマナーなどの多様な関わり方を実践するための事項を理解している。 地域社会での活動などの企画や運営、健康・安全の確保、スポーツを通じた良好な人間関係の形成する際などに求められる技能を習得している。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	生涯にわたってスポーツを実践していく際の協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めスポーツの推進及び発展に寄与する自己の姿勢や他者、地域社会との関わり方などのスポーツ価値を高めることに主体的に取り組もうとしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器械運動	技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技している。	技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、一人1人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保しようとしている。
サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとするなど、健康・安全を確保しようとしている。
陸上競技	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けている。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保しようとしている。
水泳	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。	泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保しようとしている。
柔道	技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができる。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保しようとしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	バレーボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。
バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	バスケットボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。

#### 4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括を ABC で行う。後期期末(年度末)には、それぞれの学期の観点別の評価(ABC)を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

1年間の観点別の評価(ABC)は、学校で定めた下の表から1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定
AAA	5
AAB	5
ABB	4
AAC	4
ABC	3
BBB	3
BBC	3
ACC	3
BCC	2
CCC	1

#### 【目標の実現に向けた学習状況】

- a, A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの
- b, B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- c, C: 「努力を要する」状況と判断されるもの

なお、本科目では以下の方法で書く観点の評価をおこなう。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技試験	○		○
発表・話合い		○	○
発言・行動観察		○	○
自己評価・相互評価	○	○	

#### 5 担当教員から

体育館、グラウンドで授業を行う。時間厳守、意欲的な態度で参加し、ジャージ等の忘れ物が無いよう注意すること。

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年	2	学科	普通科
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)			副教材	保健ノート		対応資格		

## 1 目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

## 2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けている。

## 3 【指導項目】ごとの評価規準

項目名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健編 3単元 生涯を通じる健康			
1 ライフステージと健康	・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2 思春期と健康	・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関する情報を適切に整理している。	
3 性意識と性行動の選択			
4 妊娠・出産と健康	・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。	・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。	
5 避妊法と人工妊娠中絶	・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。		
6 結婚生活と健康	・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<p>を評価している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	
7	中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>		
8	働くことと健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> </ul>	労働と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
9	労働災害と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。</li> </ul>	
10	健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働災害と健康について、習得した知識を基に労働災害防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。</li> <li>労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	
保健編 4単元 健康を支える環境づくり				
1	大気汚染と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> </ul>	環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	水質汚濁、土壌汚染と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>ということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の生活や産業活動などによって</li> </ul>	

3	環境と健康にかかわる対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<p>引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	
4	ごみの処理と上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>		
5	食品の安全性	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> <li>食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。</li> <li>食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
6	食品衛生にかかわる活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>食品衛生に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> <li>食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。</li> <li>食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	
7	保健サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> </ul>	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
8	医療サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。</li> <li>保健・医療制度及び地域の保健・医療</li> </ul>	

9	医療品の制度とその活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>・疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<p>機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	
10	さまざまな保健活動や社会的対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> <li>・地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している。</li> <li>・様々な保健活動や社会的対策について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	<p>様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>
11	健康に関する環境づくりと社会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>・一人一人が健康に関心を持ち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関する環境づくりと社会参加について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> <li>・ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。</li> <li>・健康に関する環境づくりと社会参加について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	<p>健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

#### 4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくははすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括を ABC で行う。後期期末(年度末)には、それぞれの学期の観点別の評価(ABC)を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

1年間の観点別の評価(ABC)は、学校で定めた下の表から1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定	【目標の実現に向けた学習状況】 a, A:「十分満足できる」状況と判断されるもの b, B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの c, C:「努力を要する」状況と判断されるもの
AAA	5	
AAB	5	
ABB	4	
AAC	4	
ABC	3	
BBB	3	
BBC	3	
ACC	3	
BCC	2	
CCC	1	

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	%ではなく、 ○で表現した
単元テスト	○	○		
発表・話し合い		○		
ワーク		○	○	
発言・行動観察			○	
自己評価・相互評価			○	

#### 5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、意欲的な態度で参加し、教科書・ワーク等、忘れ物の無いよう注意すること。